

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.5

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43886

極秘

次長 森田 官印
昭和 44-9-16

衆議院 参議院
外務省 通

下 外務省 参事 参事

沖縄返還問題 - 愛知大臣が2次訪米に付て

米北一長

44. 9. 16 記

今般の交渉に於ての交渉に寄加後 - 足元上帰国に於て
所感 次々とあり。

1. 米側には交渉を止めたとの通意が有つた。

(1) ストーン公使が返米 10月の下旬に交渉の結果

を待たされたことから、内閣府内に話が入り、12日の
愛知、山口、ス公使と井田、長官自ら非常事態に

(内閣の解決促進の通意を受けて)

とあって、法律家としての意見を生かすに務めると共に
解決方法を探求 15日に再度大臣と協定した。

(2) 長官は頭の問題が早く、しかも沈着であり、内閣府
局もに照らしている様子であり、士気、ニフソン大統領

とも極めて近く、~~日米の合意~~に至るに米側内部に取
りあがり、自信が成せられた。

2. 但し軍部、国防省は貿易交渉は~~交渉~~交渉

17-18 国防長官以下は甲斐の急進展を喜みとて

二、数日後再検討を既4、満足な解決に向つて

11日とて内閣府に限り死力を尽す方針を決定した

内閣府とて24日愛知が2次訪米の結果を踏まえて

就待を行なうつもりで交渉は成功に自信を

持つた。総理訪米への道程は予余曲折が予想

され、日米間の交渉態度をしっかりと期待していた。

(3日)

3. 残る問題点 - 文言と実質

(1) 今回合意を通じ、韓国、台湾の文言に付いて概ね

双方も一致の~~見~~見があると思ふ(但し60年11月の
突如の出来事)が、基本の大問題も概ね全(米側)

であり、米側はとて当面最大の難問(全に対内的)

をどう解決するに付いて文言で若干の歩み寄りがあつた

原案に便しては 詰められた。 (有方様と折衝した
 7月24日 米側 - 早稲明在す 閣内閣内 - 非公用
 取り決めに要する声かけは、
 (2) 財政問題に於ては 米側の意向の大部分が承認
 取不致 福田首相。 今後の財務五省会進行の
 形と右の通り。 今後の交渉の成り行きは 由所
 が予想した。 VOAに7月24日 米側から
 再度有線電報が出た。 当方外務省に 態度を
 表明した。 極めざるの困難が予想した。
 4. 総理が米に 借財の努力が必至。
 (1) 今次会談で 文言面での 若干の進展を認めては
 双方の解決の法意の法工が 進められて来た
 ことは 喜ばし。 特に 実定問題を中心に 今後
 総理が米に 2ヵ月 定了するに 至るに 望む

了り易く 相互理解が 必至と云う言正位在る。
 (2) 幸い、不、公使此れ 閣内閣内 当方 (早稲
 局長以下) と 極めざるの困難にあり 此れ 今次
 交渉に 若干の進展が 非公式 折衝に 若干の進展
 あり。 (注) 1
 (3) 軍部代表の かつ 海軍少将等 由 Aから
 背後の 関係に あり 中絶、エフ少将等
 知己が 若干あり 其の フォース あり。 (有方 少将
 右の 10月の 密接関係 あり。)
 (4) 一般に 自米交渉 当方 若干の 国内に
 (の相互理解と 信任)
 折衝 あり あり 大いに 感じられた。
 (注) ① 今次 交渉に 大規模 特別 補助に あり
 金融 関係 (有方 少将) あり 折衝の あり
 今の あり 閣内閣内 あり 折衝の あり
 ② 有方 少将 DEEPに あり CLEAR と あり あり